Let`s know Hiroshima Castle.

しろうや！広島城

NO. 21

変わりゆく広島の町並み

みなさんはこの写真の建物をご存じですか？

中央に丸い屋根を持ち、川に面して建つ大きなレンガ造りの洋風の建物ですが、広島県物産陳列館、のちに広島県産業奨励館と呼ばれた建物です。大正４年（1915）に元安川河畔（かはん）の猿楽町（現在の大手町一丁目）に建てられ、県内の物産品の陳列・販売のほか、さまざまな美術展覧会の会場として活用されていました。

「広島県物産陳列館」（個人蔵）

設計者はチェコの建築家ヤン・レツルで、大きくうねりを繰り返す壁面や、中心にそびえる銅板葺（ふ）きで卵状のドームなど当時としては大胆なデザインが取り入れられています。この建物はたちまち広島名所の一つとなり、名所案内の絵葉書が数多く作られています。

もともと広島県産業奨励館が建てられた地域は、江戸時代、細工町・猿楽町（現在の中区紙屋町、大手町一丁目）と呼ばれていました。町は広島城のすぐ南に位置しており、南に西国街道、西に元安川（太田川）を利用した舟運と、水陸の交通路に恵まれていた場所で、地域経済の中心地として多くの町屋が立ち並び、城下町において賑（にぎ）わったところの一つでした。その様子は「広島城下絵屏風」などの江戸時代の絵画資料からもうかがうことができます。広島県産業奨励館が建てられた場所には藩の米蔵が置かれていて、領内から集められた年貢米とともに、その輸送にあたる水主・人夫などの出入りが多かったのではなか

江戸時代の米蔵のようす（「広島城下絵屏風」広島城蔵）

ろうかと思われます。明治時代へと時代が変わると、城が本来の機能を失うとともに、城下町も様変わりしました。細工町や猿楽町界隈には新業種の店舗が多く立ち並ぶようになり、五階楼や米田良平支店などの洋風で高層の建物が出現しました。後には広島郵便局や島病院などの近代的な建物も見られるようになりました。

広島五階楼（広島城蔵）

五階楼はその名のとおり五階建てで、明治13年（1880）に建てられました。壁が上の階に向けて徐々に後退していくセットバック形式になっており、当時大変珍しい木造高層建築物でした。

写真から、建物が道路に面して建てられているのが分かります。実は江戸時代では、城下町においては派手な建築物は規制されていて、表に面した建物は低くし、高い建物を建てる場合は裏手に建てなければならなかったのです。明治維新後にはこの規制が無くなり、こうした目立つ建物が道路に面して建てられました。写真には道路沿いに三軒の高層建築物が写っており、中央の建物が五階楼、その後ろの高層の建物は五階楼の付属的な建物と思われます。 手前の建物は米田良平支店で、この店と五階楼は牛肉や鶏肉を扱った料理屋で、洋風料理も出していました。五階楼は、その威容で多くの人々の目を引き、一時期は町のランドマークになっていました。しかし、より近代的な洋風建物が多く出現するようになると、やがて忘れ去られ、いつ無くなったのかは分かっていません。

広島郵便局（広島市公文書館蔵）

広島郵便局は元安橋東詰めにありました。建物は、玄関部分に三階建の時計台を持ち、主屋部二階建ての木造洋風建築物でした。レンガと瓦屋根が組み合わされた建物で、その威容について、『続がんす横町』で著者薄田太郎氏は次のように述懐しています。「かつて繁華街の中心にデンと腰をおろしていたこの郵便局の外観は、創立当時そのままで、正面の大時計は極めて印象的であった。その円形を取り囲んだギリシャ風の屋根のカーブにも広島の年輪がうかがえたものである。」ところで、広島に初めて郵便局が設けられたのは明治4年（1871）12月4日のことで、塩屋町（現在の大手町、紙屋町）に置かれました。その後数回場所が変わり、この細工町へ移ったのは明治26年（1893）4月のことでした。

島病院は昭和8年（1933）8月に広島郵便局電話課の跡地に建てられたもので、レンガ造り2階建ての建物です。玄関の両サイドに丸柱と円形窓が施されているのが印象的で、中庭を抱えてコ字状に約50の病室を持つ、当時の民間病院としては大規模なものでした。壁の厚さが1メートルもあるのが特徴で、院長の島薫氏はどんな爆撃にも耐えられると考えていました。

このように、明治時代から昭和の初めにかけて広島が近代都市へと歩んでいく過程において、細工町や猿楽町は、繁華街の一部を形成していました。しかし、昭和20年（1945）８月６日の原爆投下によって、町は一瞬にして失われてしまいました。爆心地だったため、島病院は爆風の直撃を受けて押しつぶされたようになり、玄関周りをわずかに残して全壊しました。また、広島県産業奨励館は屋根や最上階は失われ、建物の一部を残して壊滅し、その印象的な姿はやがて原爆ドームと呼ばれるようになり、平成８年（1996）には世界遺産に登録され、世界中の人々に原爆の惨禍を訴え続けています。　（山脇）

被爆後の広島郵便局と広島県産業奨励館
（岸本吉太氏撮影・広島平和記念資料館提供）

おしえて！　広島城博士 12

Q　中御門から天守閣に行く途中にある、コンクリートがむき出しになった建物は、お城の雰囲気とちょっと雰囲気が違うけど、何のためにつくられたもの？

Ａ　みんな城と聞くと、石垣や白壁の建物をイメージすると思うが、ここは天守閣や二の丸と少し雰囲気が違うのう。

ここに見えるコンクリートは、中国軍管区司令部の地下通信室（防空作戦室）の跡なんじゃ。ここがいつ頃つくられたか、はっきりとはわからんのじゃが、太平洋戦争が激しくなった昭和２０年（１９４５）のはじめにはあったと考えられておる。

ぱっと見てもどんな建物なのかわかりづらいが、入り口をよく見てみると、ぶ厚いコンクリートとその上に土が厚く盛られているのがわかる。じつは鉄筋コンクリートで作られておるんじゃ。しかも建物の入り口は地面より少し低いところにある。いわゆる半地下式の構造なんじゃ。

それにしても、なぜこんな建物をつくる必要があったと思うかの？

この建物の中は、４つの部屋に分かれていて、敵の飛行機がどの方向から飛んでくるかなどの情報をキャッチし、敵の攻撃に対する作戦立てたり、一般の人たちに避難するように知らせを出したりしておったんじゃ。だから、簡単に敵に見つからないよう、攻撃を受けても被害が出にくいように、建物を頑丈（がんじょう）に、外から見てすぐにはわかりにくいようにつくる必要があったんじゃ。

ここでは、軍の関係者だけでなく、比治山高等女学校の女学生９０名が３グループ３交代で働いておったんじゃが、昭和２０年（１９４５）８月６日の原爆投下で、ここで働いていた多くの人たちが犠牲になったんじゃ。だからここには慰霊碑が建っておるんじゃよ。広島城の中で戦争の爪あとと悲惨さを伝える場所の一つでもあるんじゃ。平和を考えるきっかけにしてもらえたらいいのう。　（川橋）

私のおすすめスポット

顔の見える広島城

広島城では、職員２０名ほどが天守閣内の博物館の管理・企画展の準備、入館受付、警備などを行っています。また、フィールドワークやショップ、質問対応などで、出来るだけ皆様の前に職員が出るようにしており、職員の顔の見える博物館を目指していますが、職員以外に広島城で「顔」が見えるところがあるのをご存じでしょうか。

一つは、天守閣です。天守閣の東側から、鯱（しゃち）がのっている一番上の屋根を帽子に、五階にある華頭窓（かとうまど）を目玉とし、四階部分の破風をひげにみたててください。右の写真のとおり、窓は黒く塗ってあります。何となく顔の形に見えてきませんか？天守閣を見る位置、角度によって顔の表情が少しずつ変化しますので、様々な場所から天守閣を「顔」として眺めてください。ちなみに、広島城博士の顔はここから来ているのです。

もう一つは、意外な場所に顔があります。これは、本丸の中にある石垣の石の一つに残されています。写真をご覧ください。顔の形に見えませんか？この石は、顔に見せるため穴を開けたわけではありません。おそらく、石を採石場から取り出す際、楔という工具を打ち込むために掘られた穴ですが、そこで割れなかったために残されたと考えられています。こうしてできた穴が偶然皆様の眼に触れるところで見ることができるのです。

どこにあるかって？ それは探してみてください。　（玉置）

目の部分

口の部分

点線の部分が目と口に見えるかな？

しろうや！
広島城

編集・発行
財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電　話：082-221-7512
ＦＡＸ：082-221-7519

平成２１年９月30日発行

広島城利用案内
開館時間：９：00～18：00
（12月～2月の平日は９：00～17：00）
入館の受付は閉館の３０分前まで
入館料：大人３６０円（２８０円）
小人１８０円（１００円）
（　）内は３０名以上の団体料金
休館日：12月29日～１月2日
ホームページ　http://www.rijo-castle.jp

携帯サイト

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます